

令和6年度 全国学力・学習状況調査の結果について

令和6年10月11日

枚方市立杉中学校

文部科学省が今年4月に実施した、令和6年度全国学力・学習状況調査の結果について、本校の学力や学習の状況を保護者の皆様にお知らせします。結果によると、生徒の生活習慣と学力には相関関係があることから、引き続き、保護者の皆様にもご協力をお願いいたします。

※調査結果について

教科や出題範囲が限られていることから、全国学力・学習状況調査により測定できるのは、学力の特定の一部分です。

学力調査の結果

<学力調査結果の概要>

○国語について

→本校の調査結果は、全国をやや上回る結果であった。R3年度からの経年結果を見ても、上昇傾向にある。本校の授業において、自分の意見を発表する授業形態をとり入れており、「自分の考えを述べる」問題で成果がみられるようになった。これは全体での成果としてもあげられる項目でもあり、継続して今後も行うとともに、必要に応じた質問にも対応していけるような力の育成も必要である。

○数学について

→本校の調査結果は、全国をやや上回る結果であった。R4年度に大きく下がる結果が得られたが、R5年、R6年と上昇傾向にある。日頃の授業の繰り返しの演習が効果を発揮したと考えられる。今後としては、協同学習の充実をさらにはかり、発表や表現の時間を増やし、記述式の問題での力の育成が必要である。

教科に関する調査

<国語>

成果

話し合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結びつけて自分の考えをまとめることができるかどうかをみる

【話し合いの一部】の誰の発言と結びつくのかが分かるように書くこと。

条件2

条件1

【話し合いの一部】の山岡さんの最後の発言を受けて、あなたならどのように考えたかを書いてみる。実際の話し合いの様子を参考に、具体的な書き方を参考にしよう。

条件1

フィードバックの機会を設けること。フィードバックの機会を設けること。フィードバックの機会を設けること。

	正答率	無解答率
本校	52.0	5.2
全国	44.7	9.9

分析(考察)

正答率が高いと同時に無解答率が低い。授業での振り返りや定期テストなどにおいて、条件作文を書く機会を設けるようにしていることが、成果につながったのではないかと考える。根拠や理由を明確にしながら自分の考えを書く力は、これからも必要である。引き続き、自分の考えを書く機会を設けるようにしたい。

短歌の内容について、描写を基に捉えることができるかどうかをみる

A まどかなるこうげつ黄月はいま昇りつつひとたび暮れしあ雪野を照らす 長澤 一作
 B 風さやか庭に月待つ萩すすきはぎ 蝸かたむすしの声やみし夕暮れ 外園 隆
 C 朝光あさかげのひろびろしきに昨きのうの夜のつきかげありしさあたりを掃きぬ 森岡 貞香

田中さんは、AからCまでの短歌によまれている情景の時間帯が異なることに気付きました。線部せんぶ①、②、③に着目して、夕方から翌朝へという時間の流れに沿って並べ替えるなどのよ書きなさい。A、B、Cを適切に並べ替えて書きなさい。

	正答率	無解答率
本校	55.9	3.1
全国	48.3	3.4

分析(考察)

時系列で並べ替える問題は、定期テストで取り組んだ経験がある。同時に、短歌の中で時間がわかることばに着目し、ていねいに読み取ることができたと考える。情景描写が語り手や登場人物の心情を映し出していることを、さまざまな作品を通じて学習を重ねている成果である。引き続き、日ごろの授業の中で工夫して指導したい。

<数学>

成果

簡単な場合について確率を求めることができるかどうかをみる

2枚の10円硬貨こうがを同時に投げるとき、2枚とも裏が出る確率を求めなさい。ただし、硬貨の表と裏の出方は、同様に確からしいものとします。

	正答率	無解答率
本校	80.3	3.5
全国	73.1	4.2

分析(考察)

本問と後述の【課題】においては、別分野の問題ではあるが、正答率に5倍以上の開きが見られる結果となった。本問が成果につながった理由としては、教科書の例題や練習プリント等で同タイプの問題を繰り返し演習したことで定着につながったと考える。

与えられたデータから最頻値を求めることができるかどうかをみる

10 cm の位置から進んだ距離について調べた結果

1.5 1.9 1.9 1.9 1.9 1.9 1.9 1.9 2.0 2.0
 2.0 2.0 2.1 2.1 2.2 2.2 2.2 2.2 2.4 2.4

(単位：cm)

次の(1)から(3)までの各問いに答えなさい。

- (1) 10 cm の位置から進んだ距離について調べた結果をもとに、10 cm の位置から進んだ距離さいひんちの最頻値を求めなさい。

	正答率	無解答率
本校	76.9	3.5
全国	74.3	5.8

分析(考察)

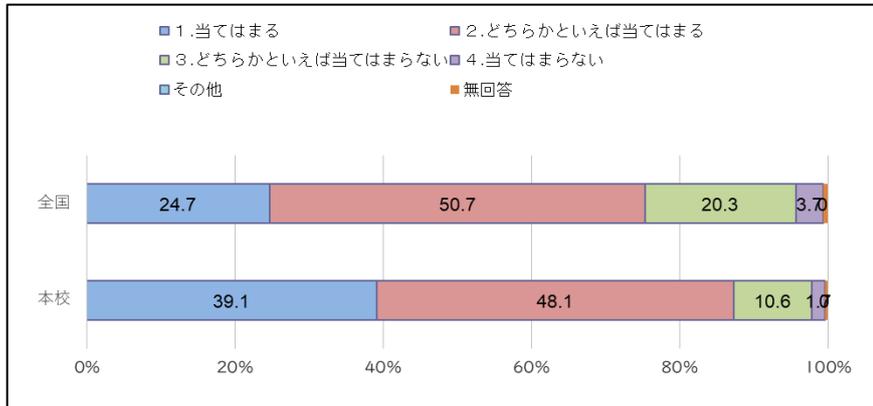
第1学年で学習する分野「データの活用」においては、以前から他分野(特に計算等の分野)よりも演習時間が短かった。その反省を踏まえ、短答式にこだわった問題演習の時間を増加させたことが、正答率の向上につながったと考える。もちろん短答式だけでなく、記述式の問題のような論理的思考力が試される問題にも、十分対応できるような指導を心掛けたい。

質問紙調査の結果

※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」を示しています。

※無回答があるため、帯グラフの合計数値は100にならない場合もあります。

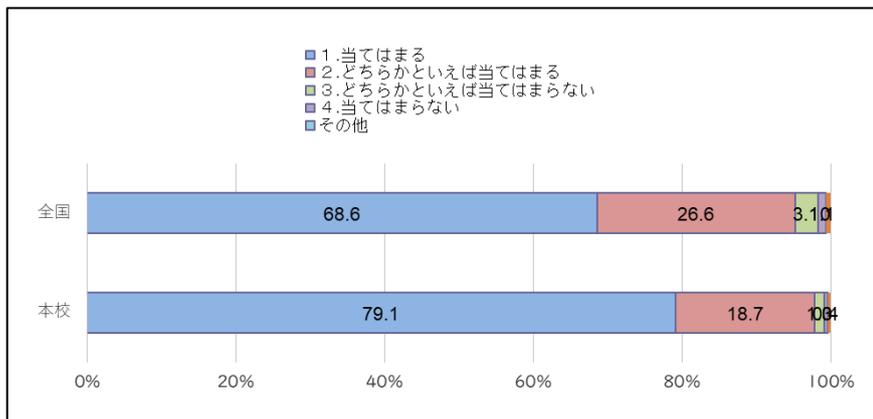
質問:1,2年生のときに受けた授業では、各教科で学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。



分析(考察)

各教科で協同学習に取り組む中で、班学習を多く取り入れ、自分の意見を述べる機会が多くなっている。その結果が表れたのではないかと考えられる。

質問:人の役に立つ人間になりたいですか



分析(考察)

道徳や総合の授業、教科の授業も含め、日頃の生徒指導や仲間づくりの中で、自分も大切にしながら、「人を思いやる心」の成長がうかがえる。協同学習で、仲間とともに解決するという課題を行う成果でもあると考えられる。

分析結果を踏まえて取り組んでいくこと

(1) 授業改善について

・授業環境の構築。

生徒が間違えることを恐れずに、安心して発言や質問をできるようにする。

・課題設定の検討。

知的好奇心を高めるような課題・基礎知識の定着を意識した課題など工夫を行う。

・文章表現の機会を増やす。

道徳の授業も含め、各教科の授業で自分の考えを書く場面を増やし、生徒の表現力・文章力の力を向上させる。また、目的や条件に応じた文章を書く場面を増やすことでも、生徒の表現力・文章力の力を向上させる。

・発表する機会を増やす。

タブレットなどのICT機器を効果的に活用し、生徒がみずから考え、調べ、表現する力の向上をめざす。

・単元計画表の活用。(作成・配布)

見通しを持って生徒が計画的に学習に進められるようにする。また、単元計画表を用いて授業のふりかえりを行い、自己分析する力の向上も目指す。

・協同学習の充実。

話し合い活動を充実させ、考えを深める機会・他者から学ぶ機会を増やし、生徒の主体性・他者と協働して課題解決を図る力の育成に努める。

・教員の授業力の向上

研修や相互授業参観を充実し、教師も協働する中で、授業力の向上に努める。

(2) 家庭学習について

・単元計画表の活用。

計画的に家庭学習を進める事ができるように、単元計画表を用いた指導を進めていき、自学自習力を高めていく。

・提出物カレンダーの活用。

生徒が主体となって計画的に家庭学習を行えるように、学習委員会も活用しながら提出物や小テストなどの予定をクラスで発信するようにする。

・課題の検討。

問題をこなすだけの課題ではなく、知的好奇心を高めるような探求型、授業内容につながる予習型の課題など、課題の質を向上させる。また、授業で学習したことをもとに、「文章を読む・考えを深める・自分の言葉で文章を書く」を意識した課題の検討を行う。

・クラスや各教科で Google クラクルームの活用。

課題の確認や授業内容の確認を行えるようにし、家庭での復習につながるようにしていく。

・家庭学習コンテンツ(ドリルパークなど)を利用した課題の検討。

各教科で研究を行い、個別最適な学習にもつながるように検討する。

・授業につながる課題設定の研究を行う。